



化学の将来や夢を語ろう!

Let us discuss the future of chemistry and our dreams for chemistry!



●
谷口 功 Isao TANIGUCHI

熊本大学長

日本化学会は、先般、日本学術会議の要請にも応えてそれぞれのディビジョンが中心となって、会員諸氏の多大な協力のもと、化学の近未来像を取りまとめた。この種の将来展望はこれまでも公開の場で報告されてきた。しかしこれからは、単に報告書として取りまとめ、あるいは学会等の公開の場で専門家にわかる形で内容を公表するだけでは不十分である。そこに示された未来像や夢を、よりわかりやすい形で国民の皆様にも情熱を持って真摯に語り、理解と支持をいただく必要がある。とりわけ、将来への投資として国民の税金が投入されている大学等の研究開発は、国民の皆様からの未来への負託に応えその支持を背景に進めていくことがますます重要になる。

化学は社会の基盤的な学術領域であり、社会の変革を具現化する新素材等を創り出してきたが、その真髄は実感し難い原子分子の世界にある。また、未知の物質を創り出す醍醐味を有するがゆえに常にリスクとも表裏一体である。例えば、ナノ材料のように極めて将来性が確信できる素材も必ずしもその生態系へのリスクに対する研究が十分でなく、一般にはわかりにくく不安を内包した側面もある。また、細分化された今日の学術研究においては、それに携わる者もその研究開発の発展の行く末に何があるのかを理解しにくいこともある。

先の「事業仕分け」は、これからの研究者・技術者が日頃取り組んでいる研究や技術開発の意味を一人ひとりが自らの言葉で社会に向かって語ることの必要性を明らかにした。日頃、研究開発や人材育成に携わる者は反省すべき点も多いことを再認識する必要がある。

我が国の新政権も科学技術が国の発展基盤の根幹であることを是としている。この6月にも取りまとめられる「新成長戦略」の中で、我が国が持続的な発展を続けていくために、不断の「イノベーション」を基軸とした科学技術の発展と社会の新しいリーダー育成の重要性が示されるものと期待している。日本化学会は専門家集団としてこれまで以上に、化学の将来のあるべき姿を新政権はもとより広く国民の皆様にも提示していくことが必要となる。

時代の変遷は急速で、ただただ頑張ればよかった時代から、その意味や生じる可能性のあるリスクをも問いただしながら、新しい価値を自ら創り出していくことが求められる時代へと変化している。しかし、いつの時代にあっても社会を創っていくのは我々自身であり、特に次世代を担う若者であることに変わりはない。社会が求めるものとは、我々自身が求めるものであり、我々自身が好ましいものとして求めるものが将来への価値の創造である。

日本化学会の会員憲章に則り、化学者としての「誇りと自覚」を持って、社会から畏敬の念を持って迎えられるように、これまでも増して化学の将来と夢を語る努力が求められている。また、一人でも多くの若者が化学を志し、化学の将来や夢の実現に尽力してくれることを期待したい。

英訳版は 353 ページをご参照下さい。English version, see pp 353.

© 2010 The Chemical Society of Japan